



ひとと向き合い、
建築と向き合う。

阿部建設120年史
History Book



今、120年の歴史を紐解く意味

過去を振り返る「記念碑」ではなく、
未来を進む「道標」として。

2025年、創業120周年を迎えるに当たり、
私たち阿部建設は次の時代に向けた
リブランディングに取り組んで参りました。

その中で見てきたのは、五代にわたる経営者たちによって重ねられ、
受け継がれてきたものをもう一度紐解き、理解することで、
次の100年の歩み方が見えてくるのではないか……ということでした。

この「阿部建設 120年史」は、決して伝統や歴史を振り返り、
誇示するための「記念碑」ではありません。

阿部建設という家族経営の小さな工務店から出発した企業が、
どのような視座をもって試行錯誤を続け、失敗と成功を繰り返し、
それでも120年という時間を生き抜いてきたのか……

それは、私たち阿部建設にとって
重要な「道標」になるだけでなく、建築業界に携わる企業様や、
地域密着で経営に取り組む企業様にとっても、
何かしらのヒントにさせていただけるのではないかと。

「阿部建設 120年史」には、
そんな願いと狙いが込められています。

INDEX

History	P04-P15
Chapter 1 下駄から大規模施設建築へ	1905-1929
Chapter 2 戦渦を超えて活路を見出す	1934-1956
Chapter 3 鉄筋コンクリート建築の旗手に	1959-1975
Chapter 4 木造住宅への転換	1989-2000
Chapter 5 次の挑戦、次の世代へ	2002-2019
Chapter 6 時代を超える未来への眼差し	2020-2025
Photo History	P16-P21
Company	P22-P25
Message	P26-P27

下駄から大規模施設建築へ

1905-1929

ABE Kensetsu History

1909 明治42年

後の二代目経営者・阿部貞一が生まれる

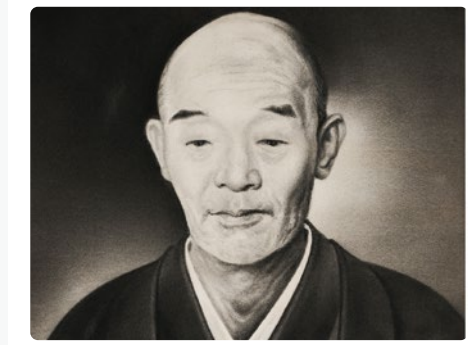
1929 昭和4年

金城学院の寄宿舎建築を請け負う。同時期に名古屋電気学校(現・名古屋電気学園)や愛知県の武道場(現・愛知県体育館)などの施設建築にも携わるようになる



1905 明治38年

初代経営者・阿部末蔵が下駄職人から転身。大工として仕事を始める



1922 大正11年

ソ連誕生

1923 大正12年

関東大震災が発生



● 阿部建設の出来事 ● 社会の出来事

ABE Kensetsu History

時代の風向きを感じ取り、発想を切り替える。阿部建設「柳経営」の原点。

時代は文明開化が叫ばれて久しい明治後期。下駄職人として腕を磨いてきた阿部末蔵でしたが、靴の普及をいち早く予見して、木を扱う技が活かせる大工へと転身しました。

時代の風向きを感じ取り、いち早く発想を切り替え、今ある手札を活かして新しいことを始める視点。この後、120年間もの長きにわたって連綿と受け継がれることになる阿部建設の「柳経営」の原点がここにあります。

小さな組織で知恵と工夫を凝らす。貞一の経営手腕。

末蔵の息子・貞一は若い頃から父と共に現場を回り、経験を積みました。しかし、大工としての腕はあまり伸びず、かわりに発揮されたのが、モノやヒトを集めて動かす経営手腕でした。

その力を活かして、数人規模の個人商店でありながら、数十人の職人たちを取り仕切り、金城学院の寄宿舎や名古屋電気学校(現在の名古屋電気学園)の校舎など、大規模施設を数多く手がけ、この後の阿部建設の礎を築いていきます。



1905-1929

History Column



貞一の得意技

貞一が得意とした商売の方法のひとつが木材の仕入れと備蓄。注文が入る前の段階で、自ら荷車を引いて良質な木材を買い入れ、作業場で製材していつでも使える状態にしていたといいます。さらに木材を品質別により分け、ニーズに合わせて供給。建築の仕事に付加価値をつけるこの「得意技」でお得意様の信用を勝ち取っていきました。

戦渦を超えて活路を見出す

1934-1956

写真提供：一般財団法人名古屋城振興協会

ABE Kensetsu History

1937 昭和12年

- 日中戦争勃発
- 貞一は事業統合により「東土建」の取締役に就任。軍需施設の建設にも携わるようになる

1939 昭和14年

第二次世界大戦勃発

1944 昭和19年

空襲に備え名古屋城の金の鯨の取り外し作業に従事。作業中空襲にあう



写真提供：一般財団法人名古屋城振興協会

1956 昭和31年

名古屋市が政令指定都市になる

1934 昭和9年

名古屋市の人口が100万人を突破

1935 昭和10年

阿部貞一が事業を継ぎ経営者になる



1945 昭和20年

第二次世界大戦 終戦



1946 昭和21年

軍や国官庁工事の仕事から撤退。金城学院や名古屋電気学校復興工事に専念する

● 阿部建設の出来事 ● 社会の出来事

ABE Kensetsu History

貞一26歳で事業承継。阿部建設の根幹になった言葉。

名古屋市の人口が100万人を超えた頃、26歳になった貞一は父から事業を継ぎ、名実ともに二代目経営者となりました。

このときの体験をもとに、貞一が度々口にしていたのが「建設業（請負業）は大きくなると、できものと同じでつぶれてしまう。決して大きくしてはいけない」という言葉。これは後に阿部家の家訓となり、阿部建設の経営指針として根付いていきました。

建設業（請負業）は大きくなると、できものと同じでつぶれてしまう。決して大きくしてはいけない

戦後の復興に尽力し、阿部建設を設立。

貞一が事業を継いでから間もなく、世界は戦火に包まれていきます。貞一はその経営感覚から「特需」と言われる国や軍の官舎建設の仕事を数多く手がけ、事業を拡大していきました。しかし、その中で避けて通れなかったのが忖度や談合。貞一はこれらを嫌い、真っ正面からものを言う人間だったため、軋轢もあったと言います。

そんな中でもある種の伝説になっているのが空襲対策で名古屋城の金の鯨の取り外し作業に従事したエピソード。なんと作業中に空襲に見舞われ、本丸御殿焼失の現場に居合わせることに……この出来事は戦後、新聞にも掲載され、話題になりました。

その翌年には終戦を迎え、貞一は心機一転。奇跡的に戦火を免れた手持ちの木材や作業場を活かし、かつて父と手がけた金城学院や名古屋電気学校の復興事業に乗り出します。その後、復興事業を終えた貞一は「次の時代」に向けて民間の仕事を広げるべく、阿部建設有限会社を設立しました。



写真提供：名古屋空襲を記録する会



読売新聞：2012年4月2日掲載

1934-1956

History Column



貞一は発明家!?

戦後の復興期は、ある意味、貞一にとってその手腕を大いに振るうことができる場でもありました。学校の復興事業では校庭に作業場をつくり、運搬や工事を効率化するアイデアを発案。また、さまざまな技術の研究を重ね、20の実用新案、15の特許を取得する発明家でもありました。

中でも、伊勢湾台風を経て生まれた鉄筋コンクリート住宅「金城ハウス」は貞一の代表作として今に語り継がれています。

鉄筋コンクリート建築の旗手に

1959-1975

ABE Kensetsu History

1964 昭和39年

建築家・神谷義夫氏とともに名古屋北教会を建設。
阿部美男が三代目経営者として社長に就任



1965 昭和40年

マンション東山荘を建設



1975 昭和50年

美男の弟であり、現副会長でもある阿部英臣が入社



1959 昭和34年

伊勢湾台風上陸。甚大な被害の影響で、鉄筋コンクリート建築の普及が進む



出典：陸上自衛隊第10師団

1966 昭和41年

「マンション東山荘」の建設を機に、阿部建設として不動産の開発・管理を手がけていく

1968 昭和43年

東名高速道路開通

1969 昭和44年

不動産事業の拡大に伴い、中部地所株式会社を設立。十数棟のマンションを建設する

● 阿部建設の出来事 ● 社会の出来事

ABE Kensetsu History

貞一の想いを引き継いで、新たな道へ挑む。

1960年代に入ると貞一は三代目経営者・阿部美男に阿部建設を託しました。貞一が美男に残したのは「決して大きいことが良いのではない。小さくても中身の良い会社になりたい」と言う言葉。
当時20代前半だった美男は、その想いを引き継ぎ、貞一が築いた技術や人脈を活かし、新たな道を切り拓くべく挑戦を始めます。

建築家・神谷義夫氏との出会い。
鉄筋コンクリート建築の時代へ。

美男は建築家・神谷義夫氏に師事するようになり、彼が設計した「名古屋北教会」などの建設に尽力。まだ対応できる会社が少なかった鉄筋コンクリート建築の実績を重ね、さまざまな建物を手がけていきます。
なかでも、「マンション」という言葉がまだ広辞苑にも掲載されていない時代に竣工された「マンション東山荘」は注目を集め、主にハイクラスのビジネスマンから好評を博しました。これを機に阿部建設は中部地所株式会社を設立。美男の指揮の下、不動産の開発・管理事業にも進出し、数多くのマンションや豪邸を手がけることとなります。



1959-1975

History Column



出典：陸上自衛隊第10師団

伊勢湾台風の影響

1959（昭和34）年9月26日に潮岬に上陸し、紀伊半島から東海地方を中心にほぼ全国にわたって甚大な被害をもたらした「伊勢湾台風」。このとき、被災した街並みを目の当たりにした美男は「これからは鉄筋コンクリートの時代だ」と考えるようになったと言います。実際、1960年代の阿部建設は鉄筋コンクリート造のマンションを多数つくっていきました。

木造住宅への転換

1989-2000

ABE Kensetsu History

1989 平成1年

後の五代目経営者・阿部一雄が入社。OMソーラー会員になる



1991 平成3年

二代目経営者・貞一が亡くなる

1995 平成7年

- 阪神・淡路大震災が発生
- 美男が会長に就任し、英臣が社長に。OMソーラーが軌道に乗り始める



1990 平成2年

一雄の息子・将也が生まれる
初のOMソーラーモデルハウス「瓢箪山の家」を竣工



1997 平成9年

消費税が5%に

2000 平成12年

二千年紙幣発行

● 阿部建設の出来事 ● 社会の出来事

阿部建設の礎となる、OMソーラーとの出会い。

当時の阿部建設は、木造・鉄骨・鉄筋コンクリート造など多様な家づくりに対応していました。また、元請けから下請けまで幅広い建築に関わっていた時代でもあります。こうした状況から美男は阿部建設の住宅事業に「次の事業の軸」を模索。住宅や街並みの在り方、地球環境との向き合い方を見つめ直す中で出会ったのがOMソーラーでした。美男から「OMソーラーを取り入れたい」という提案を受けた一雄（後の五代目経営者）は自ら試行錯誤を重ね、阿部建設ならではのOMソーラー住宅のかたちを築いていきます。

その象徴となったのが「瓢箪山の家」。工務店による自社モデルハウスの先駆けとしても注目を集め、現在へと続く阿部建設の住宅事業の礎となりました。

次代を担う一雄を襲った事故。
それが阿部建設の未来を変えていく。

1995年、体調を崩した美男に代わって弟の英臣が四代目経営者として社長に就任。美男の直系である一雄がまだ若かったこともあり、中継ぎ役として経営を任せられ一雄を支えました。

一方で営業主任として腕を振るい、後継者としての実績を積み上げていた一雄でしたが、2002年、オートバイレース中の事故で車いす生活を余儀なくされます。しかし、一雄は不屈の精神と独自の発想で「車いすの建築士」を志すことを決意。バリアフリー事業の立ち上げに取り組みはじめました。

ABE Kensetsu History

History Column



美男の仕事ぶり

英臣（現副会長）は「美男は根っからの技術屋で、採算よりも、難しい仕事ばかり引き受けてきちゃうんですよ」と当時を振り返ります。一方で、「技術者ながら経営の責任も背負うプレッシャーで、ビリピリしている時期もありましたね」とも。息子である現社長の一雄は「子どもの頃は平日に親父の顔を見た記憶がないんですよ。朝からずっと働いてましたね。でも、日曜日は必ずどこかに連れて行ってくれた」と語ります。そんな人物だったようです。

1989-2000

History Column



一雄が見た世界

美男の「息子には広い世界を見てほしい」という思いから、一雄は少年時代からアメリカや韓国でホームステイを経験。阿部建設に入社する直前には半年間の準備期間を与えられハワイに滞在して現地の建築・不動産事情を視察してまわりました。古い街並みが残り続ける風土、建築・建設のプロに対する社会的地位の高さ、その地位の高さ＝費用の高さから醸成されたDIYカルチャーの発達など、日本の価値観にとらわれていた自分を思い知ったと言います。

次の挑戦、次の世代へ

2002-2019

ABE Kensetsu History

2005 平成17年

阿部建設が創業100周年を迎え、一雄が五代目経営者として社長に就任。



愛知万博「百の箱」で、中小企業として初の万博出展を果たす。「地域マスター工務店WEB大賞」を受賞

2009 平成21年

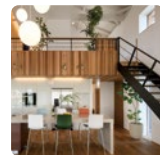
制震ダンパーの販売や、工務店向けの設計・施工サポートを行う名古屋環境デザイン株式会社を設立

2011 平成23年

- 東日本大震災が発生
- 建築の廃材を回収、再利用して木質ペレット製造を開始
「木木情報プラットホームあいち」を設立

2016 平成28年

一雄、「木の家と太陽と車いす」を出版。一雄の息子である将也が入社。モデルハウス「手しごとの家」、リノベーション・ショールーム「黒川ヒュッテ」がオープン



2019 令和1年

将也、「I様邸」でLIXILメンバーズコンテスト新築部門準大賞を受賞。新たなフラッグシップモデルハウスとして「kitchenSALON」がオープン

2002 平成14年

一雄がオートバイの事故で車いす生活に。入院中、「車いすの建築士」を志すことを決意し、バリアフリー事業を開始する

2007 平成19年

技術や知見、人材の共有を図るべく、地域工務店4社合同で「名工家」を発足

2008 平成20年

阿部建設オーナー会「香りの会」設立。有料・無料を選択できる画期的な会員システムでメンテナンス業務を充実させていく

2010 平成22年

戸建て住宅としては日本初となるゼロエネルギー住宅「大森エコタウンモデルハウス」を公開

2014 平成26年

一雄が取材協力した漫画「パーフェクトワールド」（有賀り作/Kiss/講談社）連載がスタート



2017 平成29年

「Aバネ工法普及協議会」を設立

2018 平成30年

漫画「パーフェクトワールド」が映画化

● 阿部建設の出来事 ● 社会の出来事

事故後も立ち止まらず、革新的な取り組みに挑む。

2002年の事故以降、一雄は「阿部建設の未来」を見つめ直し、品質と収益のバランスを保つ経営の在り方を構想していきます。

そして2005年、五代目経営者として社長に就任。

就任当時の経営改革として「年間24棟宣言」「誠実建築」を掲げ、家づくりの思想や品質を言語化。自然素材と健康への思想をもとに、真壁仕様のオリジナル住宅商品「香りの家」を軸としたブランディングを創り上げました。その後、社長就任から約10年を経て、就任当時の方針を土台にしながらも、時代の変化に合わせたリブランディングを加速。フルオーダー住宅を掲げ、接客から設計、施工管理、引き渡しまでを一人の社員が担う「担当一貫システム」を提唱するとともに、フラッグシップとなるモデルハウス・ショールーム（「手しごとの家」「黒川ヒュッテ」「kitchenSALON」など）の展開につなげ、住宅事業の発信力と提案力を高めていきました。

一雄の車いす生活での経験が、新たな価値観を生み出していく。

また、一雄が「車いすの建築士」として打ち出した「バリアフリー住宅」は、世の中になかった新しい発想として世間の注目を集め、漫画作品への取材協力、映画化・TVドラマ化で大きな話題に。自身もバリアフリー関連の書籍を出版し、精力的に活動の幅を広げていきました。

ABE Kensetsu History



創業1年目の2016年に一雄の息子将也が入社し、美勇、一雄、将也の3世代がそろった。



2016年 新たなブランディングのフラッグシップモデルハウス「手しごとの家」

2002-2019

ABE Kensetsu History

2021 令和3年

一雄、「車いすの一級建築士が教える:ほんとうのバリアフリー建築」を出版



2024 令和6年

日本バリアフリーコーディネーター協会を設立。新規事業としてバリアフリー宿泊施設が探せるポータルサイト「IKKEL (イッケル)」をオープン

LIXILリフォームショップ秋のリフォームコンテスト2024 ストーリー賞全国最優秀賞受賞

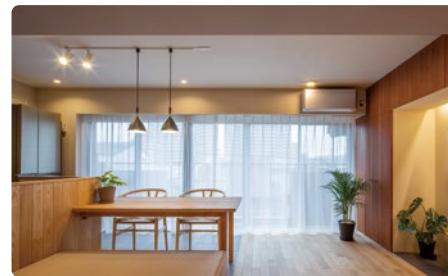


2020 令和2年

- 新型コロナウイルスが世界中で流行
- 三代目経営者・美男が亡くなる

2022 令和4年

将也、「徳川町の家」でLIXILメンバーズコンテストリフォーム部門準大賞を受賞



2025 令和7年

阿部建設、創業120周年を迎える



● 阿部建設の出来事 ● 社会の出来事

一雄の想いと、阿部建設の課題

一雄がOMソーラーを軸とした住宅事業の刷新に取り組んだ背景には、六代目経営者となる息子・将也が力を発揮できる土台を整えたいという想いもありました。

2016年、その想いを受け、ハウスメーカーでの経験を積んだ将也が阿部建設に入社します。当時の阿部建設の住宅は、OMソーラーを基軸とした「自然との共生」という思想に加え、性能や保証といった住宅の本質的な価値においても高い水準を備えていました。一方で、その価値を時代の変化に合わせてよりわかりやすく伝えていくことが求められていました。

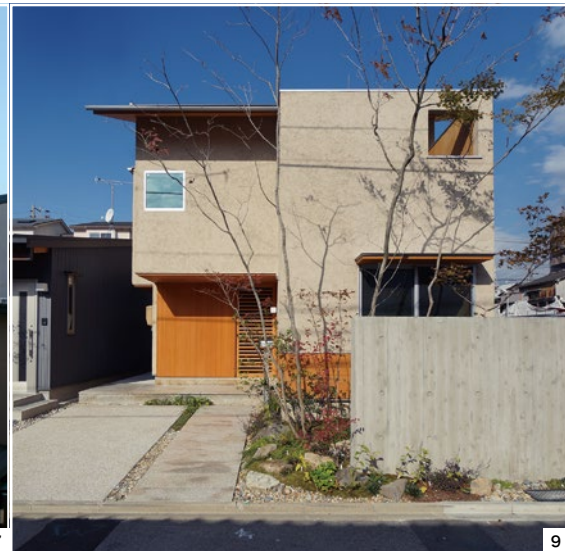
次代を担う将也が見せた、努力と実力

将也は工務店ならではの設計の自由度や現場力に、ハウスメーカーでの経験を通して得た視点を重ね合わせ、住宅事業のアップデートに着手しました。一雄が提唱した「担当一貫システム」を引き継ぐかたちで実行。設計、仕様、デザインを現代の暮らしに即したかたちに整え、フルオーダー住宅を軸に事業の再構築を進めていきます。

その成果として、2019年に「I様邸」でLIXILメンバーズコンテスト新築部門準大賞、2022年には「徳川町の家」でリフォーム部門準大賞を受賞。実績を積み重ねた将也は、次期経営者として経営陣に加わり、阿部建設の思想と事業を次の時代へとつないでいきます。

ABE Kensetsu History





モデルハウスの変遷

写真で語る阿部建設120年

①黒川本社の移り変わり ②「フォルクス」モデルハウス（現在の大森ウッドタウン）。「フォルクスハウス」とは1990年代半ば、建築家・秋山東一氏プロデュースのもと、OMソーラー会員工務店向けに供給された規格住宅。合理的でシンプルな美しさが特徴 ③阿部建設初のOMソーラーモデルハウス「瓢箪山の家」 ④2010年代前半に展開していた分譲事業、味岡エコタウン ⑤安城桜井駅周辺の環境共生型まちづくり事業に参加した際に建てた「安城桜井ドミノ住宅」（2010年）

⑥大森ウッドタウンと、美男自宅周辺の様子。上は1974年、下は2013年(名古屋市守山区制50周年航空写真) ⑦戸建て住宅としては日本初のエネルギーゼロ(カーボンオフセット)モデルハウスを手がけた(2010年) ⑧エネルギーゼロモデルハウスの内部 ⑨阿部建設×建築家・伊礼智氏設計による協働プロジェクト「ima」の「大蔵町の家」モデルハウス(2013年) ⑩建築家・永田昌民氏が設計した「小幡南の家」(1998年)。当時は一雄の自宅兼モデルハウスとして使用されていた



ひとと交流の輪

写真で語る阿部建設120年

①社員家族会の様子 ②黒川本社のオフィスの風景(1997年頃) ③一雄が近隣の小学校で毎年行っているバリアフリー講演会の様子 ④協力業者会「名工家」のゴルフコンペ ⑤2023年には「車いす建築士」阿部一雄 バリアフリーチャンネルを開設。施主宅での撮影風景 ⑥若き日の一雄、将也とその妹(1995年) ⑦「名工家」による社会貢献活動の様子 ⑧「香りの会」会員特別招待ツアー「48年ぶり内部公開「太陽の塔」見学ツアー」(2019年) ⑨社員たちの結婚式

⑩社会貢献活動の一環として地元中学生に向けた職場体験を開催 ⑪創業100周年を迎えた2005年、愛知万博「百の箱」に出展 ⑫社員家族会でも盛り体験を楽しむ子どもたち ⑬映画「パーフェクトワールド 君といる奇跡」の舞台挨拶。出演者・岩田剛典さん、杉咲花さん、原作者・有賀リエさんと並ぶ一雄 ⑭漫画「パーフェクトワールド」の原作者・有賀リエさん対談する一雄 ⑮「手しごとの家」モデルハウスオープニングセレモニー ⑯創業120周年を迎えた2025年の忘年会の様子 ⑰社内交流会で乾杯する一雄と社員たち ⑱社員研修会の風景

阿部建設の 事業展開と経営指針

120年にわたり、多様な事業を展開してきた阿部建設。
その歴史を紐解く中で、新たに言語化された経営指針……
私たちが果たすMISSION（使命）と、
VISION（目指す未来の姿）のつながりを、
これまでの事業展開を交えてご紹介いたします。

MISSION

ひとと向き合い、 建築と向き合う。

私たち阿部建設が120年間にわたって続けてきたのは、
お客様や社会が求めているものをつくり出すこと。
そして、社員や協力業者、オーナーの皆様と、
よりよい関係性を築いていくこと。

「ひとと向き合い、建築と向き合う。」
それが私たちが企業として掲げる使命です。

建築には、関わるひとすべてを幸せにする義務がある。
長く住み継がれる住まいも、先進的な工法やデザインも、
技術を継承し、人材を育てる仕組みも、
ひとの心を動かし、認められてこそ、はじめて価値が生まれる。

これから先、時代が変わり、技術が変わり、常識が変わっても、
私たち阿部建設のこの使命は、決して変わることはありません。



施設建築

1905 明治38年



住宅

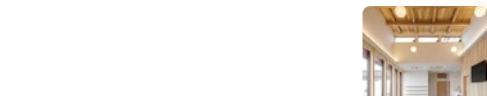
1905 明治38年

1905 明治38年



不動産

1966 昭和41年



Aパネ工法普及協議会

2017 平成29年



木木情報プラットフォームあいち

2011 平成23年



名古屋環境デザイン

2009 平成21年



香りの会

2008 平成20年



名工家

2007 平成19年



バリアフリー事業

2002 平成14年

2025 令和7年

VISION

創造力と総合力で、 100年先も選ばれる企業へ。

私たち阿部建設が目指すのは、
時代を超えて社会に必要とされ、選ばれ続ける企業になること。

一見すれば、受け身にも見える言葉かも知れませんが、
「選ばれ続ける」ためには、常に高い成果を出し、
それをお客様、地域、業界に向けて、
発信していく「挑戦」の姿勢が欠かせません。

この「挑戦」において、私たちが武器とするべきもの。
それは、120年の歴史や伝統でも、ハイレベルな建築技術でもなく、
新しい価値を生み出す「創造力」と、
多様な人財と知見を融合させた「総合力」です。

住まいや施設を設計し、つくりあげる。
そのプロセスを建築の視点だけで捉えるのではなく、
デザイン性や安全性、資産性やエネルギー効率、
中長期的なライフプラン、バリアフリーの知識などを組み合わせながら、

唯一無二の「創造力」と「総合力」を育み、
唯一無二の企業になっていく。

それが私たち阿部建設が描く、100年先の未来の姿です。

VALUE

阿部建設の価値観と行動指針

04

プロとして打席に立つ。

阿部建設のメンバーはどんな社歴・キャリアであっても、お客様から見れば建築やものづくりのプロです。そこにある期待や責任を背負うために必要なのは、個人の弛まぬ研鑽。そして互いに補い、高め合える環境づくり。私たちは常に会社として持てる力の全てを使って、お客様から頼っていただけるプロとして打席に立ちます。

01

地域から価値を築く。

私たち阿部建設は、創業の地である愛知・名古屋エリアを起点に、さまざまな事業を展開してきました。私たちはこの地域に根ざす人、技術、ネットワークを大切にしながら、全国でも通用する高い価値を築いていきます。

05

的確に、速く、柔らかく。

阿部建設は時代にフィットする組織であることを大切にしてきました。新たな技術や事業をはじめるとき、的確なサイズで速く試して、成功しても失敗しても、その結果を糧に前進していく。そんな、スタートアップ企業のような柔軟な「攻めの姿勢」こそ、私たちが120年間にわたって継承してきた阿部建設の伝統です。

02

「建てる」を追求する。

120年を超える歴史の中で決して変わらなかったもの。それは、「建てる」という事業の軸でした。暮らし、産業、教育、文化……建築はさまざまな領域に貢献できる素晴らしい仕事。私たちはこれからも研鑽を続け、「建てる」の可能性を追求していきます。

06

個が個を高める、強いチームへ。

家族経営を軸に成長してきた阿部建設が目指すのは、建築領域の事業家集団への進化。一人ひとりがプロジェクトの担い手として動き、シーンに応じて相互にサポートしあえる。まだないものはつくり、すでにあるものはよりよくする。そんな力強いチームを築き、次の100年に挑みます。

03

自ら舵をとる。

阿部建設が長きにわたって独自の歴史を重ねてこられたのは、自社が進む道を、自らの意志で決めてきたから。どんな仕事でも「阿部建設がやる理由」「自分がやる意味」をしっかりと考え、自ら舵を取る精神を大切にします。

07

重んじるのは、伝統よりニーズ。

私たちは120年にわたって重ねてきた歴史を、「守るべき伝統」だとは微塵も思っていません。本当に大切なのは、必要とされる存在であり続けること。地域の家守りとして、安心・安全な住まいを提供し、それを支える技術を次代へとつないでいく……そんな地道な営みを重ね、時代のニーズに応え続けます。

事業紹介

Our Business



住宅

個人のお客様に向けた木造注文住宅やリノベーションの設計・施工、アフターサービスなどを提供しています。



資産管理

阿部建設で建築した建物の資産価値を維持・向上させるため、定期的なメンテナンスや継続的なサポートを行っています。



バリアフリー事業

「車いすの建築士」の知見を活かし、バリアフリーの新築住宅やリフォームのご提案、宿泊施設情報サイトの運営をしています。



施設建築

学校やクリニック、公共施設など、住宅以外の建物の設計・施工・管理・改修を手がけています。



経営ソリューション

工務店や、建築事業者への技術・人材サポートや、先進的な技術の普及活動、バリアフリー設計のアドバイスなどを行っています。



不動産事業

個人のお客様に向けた土地探しや売買、土地活用、相続、ライフプラン等のご提案、自社で保有する不動産の管理などを行っています。



地域貢献活動

近隣の学校での木工教室やバリアフリー講演、地域の防災拠点としての活動など、さまざまな取り組みを行っています。

主な実績・受賞歴 Achievements

2004年 中部電力主催「eリフォームグランプリ2004」グランプリ受賞

2005年 地域マスター工務店主催「工務店Web大賞」受賞

2006年 地球の会「日本の木の家づくり優秀賞」受賞

2009年 愛知県主催「第15回人にやさしい街づくり賞」受賞

2010年 愛知県主催「2011愛知環境賞中日新聞社賞」受賞

愛知県警察・主催「第2回防犯住宅コンテスト愛知県警本部長賞」受賞

2012年 「TDYリモデルスマイル作品コンテスト2012空間別部門[バリアフリー&ユニバーサルデザイン]優秀賞」受賞

2016年 木造在来軸組+CLTの「Aパネ工法」開発

国土交通大臣認定「壁倍率」取得、性能評価機関構造性能評定「床倍率」取得

2019年 「LIXILメンバーズコンテスト2018」 新築部門 準大賞受賞

2022年 「LIXILメンバーズコンテスト2021」 新築部門「地域最優秀賞」受賞

2023年 「LIXILメンバーズコンテスト2022」 リフォーム部門「準グランプリ」受賞

「LIXILメンバーズコンテスト2022」 INAXトイレ部門「空間デザイン賞」受賞

2024年 「LIXILリフォームショップ秋のリフォームコンテスト2024」 ストーリー賞全国最優秀賞受賞





歴史と未来をつなぐ眼差し

Message

「ひと」こそ最大の資産。
「ひとづくり」で変化する時代を超えていく。

代表取締役社長 阿部 一雄

阿部家の家訓であり、阿部建設の指針でもあった、二代目経営者・阿部貞一の「建設業は大きくなると、できものと同じでつぶれてしまう」という言葉。そこには、単に「組織を大きくするな」ということだけでなく、「常に変化に対応できる、小回りの利く組織であれ」という意味が込められています。

阿部建設が歩んできた120年という時間は、正に変化の連続でした。自らの器を見定め、小回りの利く組織体制を維持してきたからこそ、私たち阿部建設は、急激な時代の変化にも追従できたのだと考えています。

インターネット、動画配信、SNS、AI……特に近年はテクノロジーがめまぐるしく進化してきました。そんな中でも変わらないもの……それは「ひと」の力ではないでしょうか。私たちが手がけてきた建築とは、

人間が使うものをつくる仕事。「ひと」が考え、会話を重ね、つくり、維持していきます。つまり、最初も最後まで鍵を握るのは「ひと」なのです。

だからこそ、阿部建設は「ひと」を最大の資産であると捉え、「ひとづくり」に取り組んできました。

お客様や事業者様の声に耳を傾けること。常に新しいことに目を向け、改善を重ね続けること。建築と、建築を取り巻くさまざまな事業を柔軟につないで地域のニーズに応えられる商品やサービスを生み出すこと……これらすべての価値を支えるのは、阿部建設の経営陣と社員、一人ひとりが持つ「ひと」の力。阿部建設はこれからも「ひとづくり」に経営の根幹を据え、未来をつないでいきます。

自分だからこそ進める道で、
「家業」から「企業」への進化をリードする。

専務取締役 阿部 将也

阿部建設を継ぐ……そのことを明確に意識しはじめたのは高校生のときでした。父・一雄から誘われた食事の席で「会社を継ぐ気はないか？」と言われて、「自分には長い歴史を持つこの会社を背負う責任があるのか……」と、少年ながらに漠然とした使命感や義務感を抱いていたことを覚えています。

その気持ちは、阿部建設に入社して大きく変化しました。会社の先頭に立つ父の姿が、これまでとは別人のように大きく見えるようになり、阿部建設の歴史を背負う使命感よりも、「経営者・阿部一雄を超えなければならない」というプレッシャーと戦う日々がはじまったのです。

一人悶々と悩んでいた私は、ある方に「僕は阿部一雄にはなれない」と打ち明けました。すると彼は「将也さんは一雄さんになる必要はないですよ」と言って

くれました。その言葉をきっかけに、私は、私にできることを見据えて進もうと決意しました。後に話をしたのですが、実は、父・一雄もまた、「阿部美男にはなれない」と悩んだ時期があったそうです。私が次代を継ぐ経営者として進む道……それは、「家業」からスタートした阿部建設を、100年先も選ばれる「企業」へと進化をリードしていくこと。そのためには、一人ひとりが「自分なりの道」を見つけて支え合い、相互に成長できる関係性が不可欠です。「血筋」ではなく「意思」でつながり、広がっていく……そんな、これからの阿部建設に、どうぞご期待ください。



阿部建設株式会社

〒462-0841 愛知県名古屋市区黒川本通4-25

<https://abe-kk.co.jp>